



まーぶる通信

2013年10月11日

発行者 福富 恵美子 / 編集者 高田 一範

〒615-0882 京都市右京区西京極葛野町 39 番地

TEL (075) 874-5639 (代表・居宅)・(075) 874-5617 (デイ・ショート) FAX (075) 874-5640 (共通)

E-mail: marble.2009@room.ocn.ne.jp ホームページ: <http://www.marble2009.org>

つれづれなるままに・・・

今年の夏はまさしく酷暑でしたね。それに加えて残暑も・・・。

皆様体調はいかがでしょう。特に利用者様の体調管理は大変だったのではないのでしょうか？

さて、まーぶるも4年目を迎え、ここは少し踏ん張りどころかなという時期に来ました。開設当初というのは「新しいところで心機一転」という勢いもあり、また、初めて遭遇することなどもあり、あたふたしながらも進んでいくものなのですが、4年5年といったところで、いろいろと不備なところが目立ちだし、職員にも疲れが出てくる頃。

幸い、ご利用者様からはおおむねよい評価をいただくことが多く、期待もいただいているのですが、すべてのご期待に添うことができない現状があります。

ヘルパーが足りていない状況はどこの事業所も同じようで、どこの所長さんからもヘルパーさんいないかなあ との声を聞きます。一時期、「介護分野は成長分野」という風潮があり、介護士養成の学校が雨後の竹の子のように設立されたものの、数年の間に学校閉鎖が相次ぎました。原因の一つに介護職の大変さが大きくクローズアップされ、介護の仕事に関してネガティブなイメージがついたというのもあるかと思えます。仕事内容がきついの、それに見合った報酬（給料）が出ないというのも大きなところでしょう。

それに加えて、障がい者分野へ来ようという求職者はほんとに少ないです。なぜなら、介護の勉強をしようとする人たちへ教えられる内容のほとんどが高齢者分野のものだからです。障がい分野はわからない。というのが正直なところなのです。ちなみに、



福富恵美子

介護職員初任者研修のなかで座学130時間のうち障がい者関係のカリキュラムは4コマ(1コマ50分)しかありません。そのなかでも、まーぶるの利用者様の多くである、重度障がい者や重複した障がいとともにあるかた、難病の方への支援については全くといっていいほど触れられません。さらに、知的障がいや精神障がいについてはいわずもがな。です。

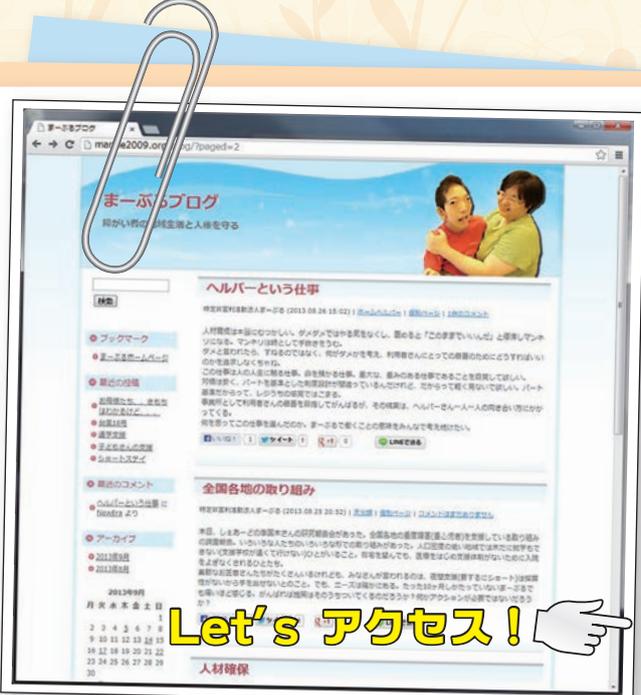
ですから、ヘルパーさんたちは入職してから一から勉強をすることになります。

まーぶるでは、ヘルパーさんたちへの研修(座学のお勉強と共に同行研修、自己学習など含め)には重点を置いています。が、なかなか難しいものも感じています。

最も私として心苦しいのは、研修に対しての財政的な裏付け(具体的には国から来る報酬)がほとんどないことです。それにより、ヘルパーさんへの報酬もぎりぎりのところしか出せないことにあります。でも、必要なことには取り組んでいかななくてはなりません。研修ができないから、重度の方はお断りします という事業所さんもあります。それではいつまでたっても溢れ出てしまう方が出てきます。そのところを何とかしたいという思いで始めたまーぶるですから、何とかしていきたいと思っています。

何とかするためにどうしたらいいか?その一つの方法として認定NPOを取得して、寄付金を集めて足りないところを補おうと思っています。詳しいことは、別紙パンフレットをご覧くださいだければと思います。

なぜ、まーぶるで寄付をお願いするのか、その背景の一つをご理解いただければありがたいと思います。よろしくお願ひします。



随時更新中!!

ブログ始めました!

既にご存じの方もおられると思いますが、まーぶるブログを始めました。

ブログのトップには、まーぶるの宣伝部長と理事長に出演していただいております。

<http://marble2009.org/blog/>

まーぶるホームページからもアクセスできます!

まーぶるコラム

— おいしいごはん —

大橋 奈緒子



少しずつ心地よい…というよりは、いきなり冷たい風が吹くようになり、なかなか体がついていかない季節になってきました。

さて。秋といえば…みなさん、何を想像するでしょうか。読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋など、さまざまな言葉がありますが、私はやっぱり食欲の秋。

食事は、私たちが生きていく中で欠かすことのできないものです。そこで、今日は「食事」ということをテーマにお話していきたいと思います。

まず、ご飯を食べる時、「おいしそうだな」または「おいしいな」と感じる時は、どんな時ですか？
朝起きて、おいしそうなお味噌汁の「におい」がした時。お弁当箱を開けて「色鮮やか」なおかずを見た時。一口食べて「とろける」ような食感の時。(味覚)

人は、ご飯を食べる時、鼻でにおいを感じたり、目で色合いを感じたり、舌で感触を楽しんだり、味わったり。さまざまな器官のさまざまな機能を使って、そのご飯がどういったものなのか、そして、自分の好みかどうかなどを判断しています。

しかし、地域で生活している人の中には、噛むことが難しかったり、飲みこむことが難しかったり、飲みこめてもすぐにせき込んでしまうという人も中にはおられます。そういった方々の食事がどういったものかご存じですか？



最近では「高齢者向け配食サービス」なるものが、社会福祉協議会や配食専門の業者などで行われており、高齢者だけでなく、ダイエット中の人も対象に入れたローカロリーなお弁当や、高血圧の人に対応した塩分控えめのお弁当、噛むことが難しくなってきた人向けに素材をやわらかく煮込んだお弁当など、バラエティも豊富になっています。

また、以前はミキサーなどで細かく刻み、原型が分からないものを出していたのが今では、ムース食というものがあるらしく、魚の形をしたものを見たことがあります。見た目「魚料理」ということがわかり、なんとなくかわいらしいもので、食べるのが楽しくなりそうでした。

食事をするという行為は、さまざまな器官を刺激されておいしさを感じることができるし、そういった刺激が生活の中でハリを持たせてくれたり、楽しみになります。

細かく刻んでしまい、視覚的なおいしさを逃していたり、とろみをつけることで料理の味が変わってしまったり、素材本来の食感を楽しめなかったり。

それで、食べることが億劫になっては非常に残念な話ですよ。人が毎日、そして一生行う生活の行為だからこそ、よりよいものになればいいですね。

しかし、地域には口から食べることが難しい人もおられますが…それはまた改めて。

地域の皆様へ 利用者様送迎時のご協力をお願い

皆様にお力添えをいただいているおかげで、日々、まーぶるは活動を行っていくことができいております。

まーぶるには多くの利用者様が車にて来所されたり、デイやショート送迎を利用されたりするため、駐車(乗降)スペースを設けさせていただいております。

しかし、駐車(乗降)スペース前の駐停車により、利用者様の車や送迎車の出入りができず、車内で利用者様が待機することがあります。利用者様の中には重い障がいにより、長く乗車できない方もおられるため、日頃より車両の運行は短時間で行えるように心がけております。

つきましては、駐車スペースへの出入りがスムーズに行えるようにご協力をお願い申し上げます。



ご利用者様へ 駐停車スペースをご確認下さい



まーぶるへお車でお越しの際には、ご面倒ですが、駐車スペース前カラーコーンを移動してお停め頂くか、職員、ヘルパーへお声かけをお願いします。

五条通

お知らせ

平成 25 年 8 月 31 日付で退職致しました。

居宅介護事業所まーぶる 副主任 濱 順子

つきましては、居宅のサービス提供責任者の異動があります。該当される利用者様へはあらためてお知らせ致します。

